### 聴 voice of faith

に「改革の背景」を聴いた。 らの納骨を受け付けている。「日本仏教を改革したい」と決意を込めて語る橋本住職 葬儀一式を自前で行うほか、日本郵便の宅配便を使った「送骨」方式により、全国か 宗教宗派・住所・国籍を問わない「みんなの寺」として寺院を運営している。同寺は 埼玉県熊谷市の見性院(曹洞宗)の橋本英樹住職は、2012年に檀家制度を廃止し、

# 大海を知らない僧侶では駄目

徳を受け取らず、天に功徳を積んでいく やっていれば付随してきます。 身を粉にして人々の救済(菩薩行)に徹 人です。収入というものは、やることを し、その行の結果、自分に回ってくる功 さっそくですが、「いいお坊さん」とは、

ない人が多すぎる。 しかし実際には、僧侶に成り切れてい

訪ね歩き、修行と研鑽を積んだものです。 行雲流水の修行者です。だから、修行者 寺で井の中の蛙になります。明治時代ま での曹洞宗は、若い僧侶は全国の寺院を を離れて大海を知ることもなく、地元の す。娑婆で揉まれることも、地元や日本 修行期間が終われば、実家の寺に戻りま 我が曹洞宗の大多数の僧侶は、1年の

> 行の後こそが重要なんですが、実家の寺 字どおりの雲水は少ないです。 を雲水と呼ぶのです。しかし、 ではいけない。 で修行とは無縁の生活を送ります。これ 本山の修 いまや文

袈裟は立派でも、中身がそれほどでもな家の前で大言壮語し、偉そうなお説教。 檀家からのお布施は「もらって当然」。檀 日々の仕事といえば、法事と葬儀です。

けるのでしょ

生き様です。 かつての私も含め、本当に空しい僧侶の 僧侶が集まれば噂話かゴルフの話題。

制度に守られているから、これまでの僧 家制度という温床があるからです。檀家 このようなことがまかり通るのは、檀

来の仕事」を も減ります。 少子高齢社会 のです。しか ですから、人 檀家さんの心 なことでは、 べてこられた 侶は「僧侶本 家族葬もどん は離れます。 し、このよう しなくても食

寺はやってい どん増えてい ます。今後、

は、利益【りえき】ではなく利益【りや をやっているわけではありません。寺院 います。しかし、やはり我々はビジネス 依存したままでは危らい。やはり、寺院 が経済的に自立する必要があるのです。 らか。<br />
檀家という<br />
旧態依然のシステムに 寺院の淘汰はすでに始まっていると思

ら菩薩行によって他者に益をもたらすこ ず、無心で人のため・世のために奉仕し、 く】を追究すべきです。 とをリヤクと言います。 人々を救済する事業のことです。こうい エキ)を追求せず、見返りなども期待せ これは何かといえば、目先の儲け(リ

### 檀家制度廃止という決断

瞬先は、何が起きるかわからない」と痛 実行する。そう、思ったんです。 ならば、やるべきことは後回しにせず、 は、お墓もお寺も永久ではないんですね。 感しませんでしたか? 自然災害の前で 東日本大震災が起こったときに、「一

険や火災保険、自動車保険を全部改め、 たが、50万円にしました。また、地震保 ェックし、寺の帳簿を洗い、無駄を省き 保険料を半額に抑えました。光熱費もチ の月給を6万円、寺からもらっていまし 災の1カ月後、それまでは妻とふたり分 まさに「まず隗より始めよ」です。震

教の自

支を検討した結果、翌2012年6月、 檀家の意向も調べ、1年にわたって収

> 時代は生き抜いていけないと思います。 見性院の檀家制度を廃止しました。自立 いのです。檀家の不満というのは、多く 家という窮屈な制度の中では発言しづら 檀家は寺に言いたいことがあっても、檀 した寺院経営者でなければ、これからの これは、檀家の解放でもあるんです。

中古車から中古車への買い替えです。買 換えたら、檀家に嫌味を言われました。 った車は国産の35万円の車ですが、それ ん。私が住職に就任したときに車を買い でも文句が出るんです。 ただ、その不満が正しいとも限りませ

こういう異常事態を生むんです。 住職の私生活にまで干渉する。これは

が、社長の私生活にまで口を挟む権利は 主は会社の経営には意見してもいいです 言ったら、檀家は株主です。しかし、株 家に食べさせてもらっています。会社で ないはずです。 もちろん、一般的には、住職一家は檀

信教の自由を尊重いたします

たかのおき見性院の指針

宗教·宗派·国籍と関与す随時墓地を 一切いただきません。管理費・護持会費を

近い将来 見性院信者の会(循縁合)を

基本的にはどなたでも会員になれます

会費は無料ででざいます

有為か人材育成をし、世に送り出してこから日本の未来を創り 世界に出行さ社会に貢献してい団体を目指しております当院は地域と共存共楽し、常教界に寄行

びつけるのは仏教の信仰であり、住職の 魅力もしくは力量なんです。義理人情だ せん。完全に自由意志です。寺と人を結 たほうがいい。離檀料はもちろんありま した。お互いのために、一回、白紙にし 人だけ、残ってください」と申し上げま 檀家制度をやめたときに、「やりたい

めたのです。

の寺で渦巻いているでしょう。

異常です。檀家制度という異常な関係が、

话

足させて

当院は

けの檀家制度は、仏教ではありません。 旧来の檀家さんで、墓地を使っている方 もそうでない方も、年会費等をすべてや 理費といった徴収を一切廃止しました。 檀家制度と一緒に、寄付や年会費、

葬・納骨式)・車代・食事代の合計で、信 は生前戒名授与の場合は20万円です。 院居士・院大姉が50万円です。俗名また 士・信女が30万円、居士・大姉が40万円、 では僧侶は3名以上で行いますが、戒名 読経(枕経・通夜・葬儀・初七日・火 ある意味で、私を認めてくれた人だけ 法要のお布施は明示しています。葬儀

合いをしていく関係へと切り替えたので す。見性院では、この方たちを「信徒」 が葬儀や法事、墓地利用といったお付き

と呼んでいます

ければ無理だ」と思うでしょう。 ていけるのか。不動産でも所有していな 普通の住職は、「そんなことをしてやっ

力があるんです。寺を健全化し、そのこ 動産はありません。 とを伝える場として復活させたいのです。 て行動しています。それに、仏教には魅 ちなみに、寺院経営を支えるような不 しかし私は、相当な覚悟と勇気をもっ

います。 院は、宗教宗派、国籍にかかわらず誰に 扱いもなければ特権もありません。見性 でも平等な「みんなのお寺」を標榜して はありません。旧檀家といっても、特別 旧檀家と呼んでいます)で、離脱した家 もともとの檀家さん(いまは便宜上、

## 葬祭業」「墓石業」を自前で

見性院の本堂での葬儀を檀家さんに呼び のほうが自然なのです。 かけました。葬儀の主旨を考えれば、 ったのは2006年です。その翌年から、 話はさかのぼりますが、私が住職にな

に空しさを感じるようになりました。法 外のことはよくわかりませんから。しか の見えない喪家との関係や、場の雰囲気 ちもありました。自分の寺にいる限りは、 時は仏教の現状を知りたい、という気持 して関東一円で葬儀をしていました。当 副住職時代は、いわゆる派遣の僧侶と 経験を積むうちに、場当たり的で顔

> 全部、自分たちで施行しようと思いまし れでいいのか」と心が苦しくなりました。 話は欠かさずしていましたが、「仏教はこ らのは、曹洞宗では重い意味があります。 とあります。ご本尊様に見守られるとい 儀を勧めよう」と決めていたんです。本堂 での葬儀ですから、宗教的情緒はおのず そこで、住職になったら「本堂での葬 葬儀社に任せるのではなく

などを購読し、研究を続けました。する んでしたから、その頃は雑誌『SOGI』 「自前」といっても専門知識がありませ

### 聴 ~a voice of faith

る業態を理解しました。 と、多くの会社が下請け業者を使ってい

という意味ではなく、寺で棺や葬具を購 いです。自分たちが下請けに丸投げする いうことです。 入し、本堂で葬儀をやっていただく、と これなら、自分たちでやったほうがい

るわけです。この資格があれば、寺でや 下げる技能)の資格者が現場で据え付け 墓石を、玉掛け(クレーンに荷物をつり わけではないんですね。下請けが作った ってもいいわけです。 墓石も、石屋さんが自分で作っている

葬儀も墓石も仏壇も全部やろうと決心し だから、檀家制度を廃止したときに、

> ました。檀家制度上の収入(年会費)が ゼロになりましたから。

飾りも、自分たちで行います。会食室も 外は自前にしました。看板も枕飾りも後 それで、職員を増員し、搬送や料理以

10人の職員がいます。 む人もいますが、それは自由です。 ています。なかには葬儀や墓石を他に頼 よりも廉価ですから、信徒さんに喜ばれ います。葬儀や供養に関することは寺で 元化したのです。すべてにおいて市価 今、正規とパートを合わせて、寺には 墓石と仏壇、仏具の仕入れ販売もして



### 送骨・ 永代供養塔への反響

使った「送骨」による永代供養塔(納骨 付けました(※)。永代供養は、送骨の前 堂、合祀墓)への個別納骨と合祀を受け から始めていました。 2008年には、日本郵便の宅配便を

ち込む人もいます。近いところならば職 料は別途)。俗名でも受け入れ、丁寧に 員が取りに伺います。永代供養料込みで 骨マニュアルなどを送ります。自分で持 合祀は3万円、個別納骨で10万円です(送 てもらい、寺から段ボールと緩衝材、 と供養します。年管理費や追加請求はあ まずは申し込みと費用の振り込みをし 送

水代供養塔は、個別と合祀の合計で5

00霊位以上を納めています。送骨は月 に5霊位ほどが送られてきます。 遺骨というのは、人によってはゴミに

定期的に年忌法要を頼むようになりまし 法事に出て、私の説教を聞いているとき、 と言って寺に持って来た人もいますが、 大泣きしたんです。それから、この人は ずっと憎んでいた親の遺骨を「ゴミ」

いんです。「故人に愛情を感じていない」 される遺骨だって、粗末にしてはいけな こういう経験もありますから、「処分」 ん。ビジネスの道具でもない。 なってしまうのです。もちろん、ゴミで はありませんし、ゴミにしてはいけませ

け止められるのは、僧侶なのです。僧侶 す。逆に言えば、行き場のない遺骨を受 も、我々僧侶はご供養することができま り、家の中で埃をかぶったままの遺骨で 継承者がいないとか、お金がないといっ とか、菩提寺がないとか、墓を建てても らんです。 が受け止め、ご供養することで、心が通 た理由で、それこそどこかに捨てられた

依頼する人が続出したのです。 の関係は一回きりだろう」と思っていま したが、年忌法要や施餓鬼など、何度も 信徒になった人もいます。 私は、永代供養を始める際、「施主と なかには

場所であり、境内においては一等地です。 した。ここは、寺を訪れる人が必ず通る 永代供養塔は、山門の手前に設置しま

> っして「棄骨」ではありません。 この場所に納めますから、「送骨」 は け

回、大変盛況でした。 今夏の施餓鬼供養は1日に4座行い、各 もとは別の宗派の方もたくさんいます。 信徒数は以前の3倍になりました。もと しています。檀家制度をやめましたが、 「手応え」も、檀家制度の廃止を後押 こういったさまざまな取り組みによる

思っています。 思っていますし、そのためにもお寺が経 ステムではなく、本来の仏教の魅力で、 は確かです。出る杭は打たれます。しか 済的に自立していかなければならないと たくさんの人にお寺へ来てもらいたいと し私は、檀家制度や葬儀という従来のシ 近隣寺院から白い目で見られているの

れいごとで生きていける」世界を目指さ はおかしい。私たちは宗教者です。「き 私を批判する方がいます。しかし、それ なくてどうするのでしょうか。(談) 「きれいごとだけで生きていけない」と、

### 【太田宏人】

便では扱わないことが多いので注意。 ※日本郵便では遺骨を扱うが、その他の宅配

に『お寺の収支報告書』(2014年、祥伝社) 008年より「送骨」方式による納骨の受付 地運営の全般を宗教法人として事業展開。2 卒。米国スタンフォード大学仏教学研究所研 開始。2012年には檀家制度を廃止。主著 究員を経て、2006年、見性院(曹洞宗、 1965年、埼玉県熊谷市生まれ。駒沢大学 はしもと・えいじゅ 谷市)の住職に。2007年より、葬儀と墓